



会誌

風のたより

コロナ特別号

●発行 N P O 法人（特定非営利活動法人）フジの森 / 東京都西多摩郡檜原村南郷 5990-1

コロナの感染対策を進めながら、 プログラムを開催！

●2020 年度は、コロナ感染防止のため檜原村教育の森は村の公共施設として 4 月と 5 月を休館し、6 月からは新型コロナへの感染対策を整えてプログラムを開催、フジの森のホームページやフェイスブックで告知しました。また、学校や団体などの貸し切り利用は、団体が感染防止対策を講じて参加することを考慮し、プログラムを催行しました。さらにコロナ禍対応のプログラムとして 1 日 1 組（グループ）の利用に限定したフリープランを始めました。前年度の延べ催行回数は 65 回でしたが、2020 年度の延べ催行回数は 54 回で、延べ参加者数は前年度比約 40%となりました。

●N P O 法人フジの森は、開催に向けて、施設内の清掃・消毒等の体制を整え、感染対策を調べて参加者が 3 密にならないように、屋外での活動を基本として作業と食事用のテーブルや椅子などの配置も、対面を避けるなどの配慮をしました。

●2021 年度の教育の森では、緊急事態措置及び重点措置の期間（210 日間）は、「個人や家族などの参加を前提とする公募型」のプログラムは開催を見合せ、解除後にプログラムの募集を開始、フジの森のホームページやフェイスブックで告知しました。また、学校や団体などの利用に対しては、昨年同様にプログラムを催行いたしました。フリープランを含め、延べ催行回数は 99 回、2019 年度の延べ参加者数に比べて約 45%でした。

●2022 年 3 月 21 日に新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が解除されたので、2022 年度 4 月に「教育の森のプログラム」を 15,000 部印刷し、東京観光情報センター多摩（エキユート立川）を始め都内の行政機関、図書館や公民館、

2019 年の参加者等に送付して、募集を始めました。

●2022 年度も感染対策を進め、上半期（4 月～9 月）のプログラムの催行回数は 75 回、すでに 2019 年度の延べ参加者数の 50% を超えました。

●先日、参加者などにコロナ感染者が出ましたが、参加者から保健所に教育の森における感染対策を伝えていただいたところ、本人の隔離治療だけで、教育の森として特に新たな対策は必要ないとのこと、感染対策は万全と保健所のお墨付きを頂いたようなものです。

●秋川渓谷観光の調査報告書 *によれば、2021 年の観光動態に大きく影響を与えた新型コロナウイルス感染の影響は次の通りです。

来訪者及び受入先の観光に対する意識は、『行きたい観光地として、「登山・ハイキング」（30.2%）と「自然風景地・農山漁村」（29.2%）が約 3 割と、3 密になりづらい屋外空間での活動が多く挙げられた。また、来訪前行動として、「旅行先を自宅から近い場所に変更した」が 24.9% と高く、次いで「3 密を避けるため、屋外の観光地を選んだ」が 23.6% と続く。また、旅行の後押しとなったことは、「秋川渓谷の自然」が 44.9%、「自然風景地・屋外なら安心だと思った」が 36.8% であった。』。

教育の森は、『3 密になりづらい屋外空間での活動、屋外なら安心』の受け皿として、また参加者の居住地は大半が都内そのため、近い場所として選ばれたと推察されます。

*秋川渓谷観光経済統計調査・分析等業務委託報告書：令和 4 年 3 月：秋川渓谷観光経済統計調査事業連絡会

2022年度の檜原村教育の森のプログラム

●2022年版教育の森プログラムを発行しましたが、新たに「4月に柴刈りと森の枝で鉛筆を作ろう、8月にデイキャンプ、9月に矢沢川の沢登り、10月にハロウィン飾りを作ろう、11月にプチ林業体験……」などを企画しました。

●プログラム発送するやいなや新企画を中心に予約申し込みのメールが殺到し、定員に達した場合は募集を見合させて、ホームページに「参加者募集中止日程」のお知らせを載せましたが、ホームページを知らない方も多く、その対応に追われました。募集中止となった人気のプログラムは、4月～9月まで間に35日分もありました。

●教育の森では、プログラムの参加受け入れ人数（定員）をスタッフの目が行き届く範囲というこ

とで、家族連れで計20名としてきました。コロナ禍ではソーシャルディスタンスを確保するため、家族ごとにイスとテーブルを用意するので、定員の目安を20名か、7家族までとし、定員を超える申し込みがあった場合は、別の日を紹介、変更をお願いしました。このメールの応対に佐藤はパソコンとにらめっこが毎日、毎日、続きました。

●始めてみるとコロナ前に比べてキャンセルの連絡が結構あり、8月7日のデイキャンプは、6家族、19名の参加予定が、子どもがコロナに感染、近親者が感染、家族が濃厚接触者になったなどとキャンセルの連絡が相次ぎ、全員不参加となり、催行できませんでした。こんなことは初めてで、キャンセルのないプログラムが珍しいほどです。

ジャガイモ料理のレシピ開発発表会 とジビエ料理体験報告

●10月20日にフジの森で、ジャガイモ料理のレシピ開発発表会とジビエ料理体験を行いました。

●屋外で行う予定でしたが、天気予報が雨だったので室内で行うため、窓は全部開けて換気することとし、参加者には寒いから防寒着を着てくるように伝えました。各学校ごとにテーブルを分け、動線も交差しないように配置したところ、それぞれの学校ごとに対策をとって動いていました。

●今回の参加者は、山藤旅館先生*の呼びかけで1917年から毎月のように檜原村を訪れている都内約12校の小中学校・高校の中から、中学生・高校生、教員や学生、保護者などの41名でした。

*山藤先生は、都立高校から中野区の新渡戸文化学園に移られましたが、檜原村でオーガニックコットンや野菜の栽培、森づくりなどを続けています。

●学校では、事前にジャガイモ料理のレシピ開発の課題に取り組み、フジの森で実際に調理器具や調味料などを用意して調理し、お互いに食べ比べて講評しました。会場に村内産のジャガイモ（男爵）を用意しまし

た。参加者は、以前から檜原村内の耕作放棄地を開墾して、ジャガイモ等の栽培をしてきました。地産地消や6次化を考える中で、檜原村特産のジャガイモの新メニューを開発して、できればレストランで商品化できなかいか、と始まった企画でした。

●ジビエ料理体験は、NPO法人フジの森が観光庁の助成事業（次ページ参照）でジビエ料理に関するレシピ及び体験コンテンツの磨き上げを行いますので、今回の集まりをジビエ教育工コツアーのモニターツアーと位置付けて、ジビエ（鹿肉）を提供して、協力していただきました。

ジビエとは、狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉を意味する言葉（フランス語）で、日本語では、野生鳥獣肉と訳され、畜産との対比として使われる狩猟による肉のことです。

●前記のような背景があり、NPO法人フジの森は後出の観光庁の助成事業でジビエ料理の開発を進めています。檜原村で害獣として駆除されるシカおよびイノシシを活用して、料理研究家の協

■食べ物は取り組みやすいが奥が深い！

力を得てジビエ料理開発をめざしています。

●ジビエをレストランでお料理として、提供するためには、食肉処理業の許可を受けた施設から仕入れます。今回は長野県の施設から取り寄せました。このモニターツアーを契機として、檜原村にも許可を受けた食肉加工施設を作り、鳥獣害を防ぎながら、村の飲食店でジビエが食べられるようになれば、と考えています。

●今回のジビエ料理は、中村博先生（都立武藏高等学校付属中学校）がシカのロース4キロを、それぞれタコ糸で縛り、調味料に漬け込み、熱したフライパンで全面に焼き色を付け、チャコールグリルで焼いてくださいました。またシカ肉の一部は、味付けしてピザの具としてピザ生地にのせ、薪窯でシカ肉のピザを焼きました。

●参加者にジビエ料理は大好評で、ジビエは美味しいことが実感できたようです。

*秋川源流の山の幸を活用した檜原村エコツーリズム商品力強化事業

事業の概要は、『村内観光施設の運営者が連携し、秋川源流の檜原村ならではの食材「川魚」、「シカ・イノシシ」、「薬草」を活用した料理と、食材に関わる体験コンテンツを提供するエコツアーアを造成する。将来的にインバウンドにも対応できる受入体制を整え、連携事業者が共同でプロモーション活動を展開することで、エコツアーアの情報発信力や商品力を高めていく。』というものです。

実施主体は数馬観光デザインセンターで、連携団体は薬草料理は檜原温泉数馬の湯、ジビエ料理はNPO法人フジの森、川魚料理はめぐらか檜原、森林環境整備はNPO法人里山再生塾、河川環境整備は秋川漁業協同組合檜原支部、事務局はまちづくりラボ・サルベージ株式会社です。



■ジャガイモレシピの調理



■メニューの発表



■ロースト鹿肉



■鹿肉のピザ

■四季の里はコロナ対策徹底点検済！！

●四季の里は、感染対策から席を再配置し、入口に検温器とアルコールスプレーを置き、各テーブルにアクリル板、窓と入り口の扉を開け、二酸化炭素計測器を置いて、換気の指標としています。

●2021年9月に四季の里に検査員が訪れ、東京都の「飲食店等感染防止徹底点検済証（青の虹ステッカー）」を取得、ほぼ1年経ったので2022年11月25日に改めて東京都の「リモート点検」を受け、認証の更新ができました。

●四季の里は、テラスに従来から置いてある丸太ベンチセットと新たに4セットのテーブルとイスを置いたので、利用される方が大勢いました。

寒くなってきたので、大きな焚火台を置きました。火が燃えているとほんわか暖かです。室内では薪ストーブが燃えていますが、外でも火があるとテラス席を利用される方が多いようです。

●四季の里のメニューは、地域の野菜を中心とした「檜原彩（いろどり）御膳」、毎週野菜が変わるので、週変わり定食の様です。定休：月金曜日。



■テラス席の焚火台



■檜原彩御膳

フジの森の利用がひろがっています！

■慶應義塾大 X-ship camp の紹介

- 2022年8月30日(火)～9月1日(木)に、慶應義塾横浜初等部の小中学生と教職員が、フジの森(教育の森)でサバイバルキャンプ……X-ship camp(クロスシップキャンプ)を行いました。コロナ感染対策のため、小中学生は大きなテントに2人ずつ泊まり、計8張りのテントを張りました。
- 参加者の相互理解やテント設営など、キャンプ実施に必要な知識や技能を身につけるためのワークショップを事前に実施。
- テント設営、弓錐式火おこし、薪ではんごう炊飯、竹はんごう作りと炭火で炊飯、竹串作りと焼き魚、秘密基地作り、沢遊び、星空観察、昆虫採集などを様々な自然体験をしました。
- 来年も教育の森でキャンプを続けたいとのことでした。今回、慶應義塾大学が教育の森を選んだのは、何度も下見をして、充実した環境と設備、一団体貸し切りの利用ができることから、安全・安心で管理しやすいということだから、と自負しております。
- キャンプの様子が、動画にまとめられています。
<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2022/9/13/27-131952/>

『慶應義塾大学 ニュース一覧 2022/09/13 教育 未来先導基金による「サバイバルキャンプ(X-ship camp)」の開催』で検索できます。



■エルメス財団が企画・開催する

社会貢献プログラムの紹介

- 2022年3月29日に教育の森で、エルメス財団が企画・開催する社会貢献プログラム「スキル・アカデミー」が行われました。2021-2022年のテーマは木で、公募した中高生向けワークショップ「木に学ぶ、五感で考える」を5回開催しました。フジの森は、第3回「C 香りと詩」の会場となり、「森と香りを抽出しよう、森で詩を探そう」の2つのプログラムを実施、NPO法人フジの森も協力いたしました。
- とても寒い日でしたが、ソーシャルディスタンスをとるため、外で1人ずつイスとテーブルをセットにして向かい合わせに並べ、中央に配列したファイアスタンドに火を入れて、催行しました。
- フジの森をエルメス財団に紹介してくださったのは、山藤先生と檜原村で活動を続けてこられた元東京都立南多摩中等教育学校の青嶋先生(国語)です。

※なお、エルメスは1837年に設立されたフランスの高級品メーカー、ファッションブランド。

<https://www.hermes.com/jp/ja/story/maison-ginza/skillsacademy/wood/reportC/>

『エルメス財団 スキル・アカデミー』を検索して、『春のプログラム』2022年3月26日(土)～31日(木)活動記録はこちらから』をクリックして、「C香りと詩」を選ぶとフジの森での活動が紹介されています。

